

6.お寺で行う子ども食堂 平田寺子ども食堂

岡本敦希

1.始めたきっかけと母体

元々平田寺では子ども食堂に近いものを行っていて主催者の長谷川さんのママ友や子どもの友人などが参加していたが、子どもが大きくなるにつれて友人などの参加が減っていき、そこで子ども食堂という看板を上げることでだれでも気軽に参加できるようになるのではないかという思いや、食べることは生きること、食を通じて様々な物事に会い、子ども食堂での出会いを通して生きる力と年齢を問わず、ともに生きる仲間に出会ってほしいというおもいから平田寺子ども食堂という名前で子ども食堂をはじめることになった。平田寺の子ども食堂の運営主体は飲食店営業許可を持っている。

2.これまでの開催日と人数とメニュー

第1回 2016年2月14日オープン。

最初のメニューは、農園さんが寄付してくださった野菜や太刀魚などを使ったオープン記念の特別メニューだった。

参加人数：子ども12名、大人21名

第2回 2016年3月13日 参加人数：子ども13名 大人21名

第3回 2016年4月10日

第4回 2016年5月8日 参加人数：子ども21名 大人14名

第5回 2016年6月12日 参加人数：子ども25名 大人24名 スタッフ15名
メニュー：サラダ、夏野菜のトマト煮、カレー風味のドライ肉じゃが、ネギと卵の味噌スープ、リンゴの塩麹ソテー

第6回 2016年7月10日 参加人数：子ども15名 大人17名 スタッフ13名
メニュー：玉ねぎと揚げのたまご丼、豆もやしとニラのスープ、豆乳ヨーグルトのポテトサラダ、キュウリと人参のさっぱりサラダ、茄子とピーマンの味噌炒め、トウモロコシ、枝豆

第7回 2016年9月11日 参加人数：子ども20名 大人16名
メニュー：鶏のから揚げ、マッシュポテト、茄子とトマトの煮込み、カレー風味スープ、サラダ

第8回 2016年10月9日 参加者：子ども12名 大人6名
メニュー：カレーライス、カボチャのサラダ、コールスローサラダ、茄子とピーマンの味噌煮、ちくわキュウリ、おでん

第9回 2016年11月13日 参加者：子ども12名 大人8名 スタッフ9名 取材名
古屋テレビ2名
メニュー：キノコの混ぜご飯、かぶの味噌汁、里芋と高野豆腐の煮物、大根の炒め煮、さつまいもとリンゴの蒸し煮

第10回 2016年12月10日 参加者：子ども13名 大人13名 スタッフ10名
NHK記者2名
メニュー：カレーライス、カボチャとリンゴのサラダ

第11回 2017年2月12日 参加者：子ども13名 大人14名

第12回 2017年3月12日 参加者：子ども13名 大人17名

第13回 2017年4月9日 参加者：子ども15名 大人14名
メニュー：混ぜご飯、季節の野菜のお味噌汁、野菜サラダ、きゅうりの和え物

第14回 2017年5月14日 参加者：子ども44名 大人23名
メニュー：ちらし寿司、小松菜のおひたし、ひじきとクスクスのサラダ、じゃがいものかき揚げ、シフォンケーキ、手作り麴菓子

第15回 2017年6月11日 参加者：子ども16名 大人19名 スタッフ13名
メニュー：野菜の重ね煮、ジャガイモの揚げ煮、セロリの炒め煮、厚揚げの甘酒照り焼き、きゅうりとにんじんのサラダ、フライドポテト、シフォンケーキ
食事以外ではマルシェや親子体操、アクロヨガが行われていた。

第16回 2017年7月9日 参加者：子ども20名 大人16名 スタッフ11名
メニュー：キツネたまご丼、野菜のクリームスープ、セロリの菜のナムル風炒め、ナスとセロリとみょうが和え、トマトのサラダ、フルーツ豆乳寒天、シフォンケーキ
食事以外ではマルシェが行われていた。

第17回 2017年9月10日 参加者：子ども9名 大人17名 スタッフ10名
メニュー：キノコの混ぜご飯、夏の雑草の味噌汁、麻婆白菜、ポテトサラダ、シフォンケーキ
食事以外では市場、手作りの寺子屋、太極拳が行われていた。

第18回 2017年10月8日

メニュー：おにぎり、餅

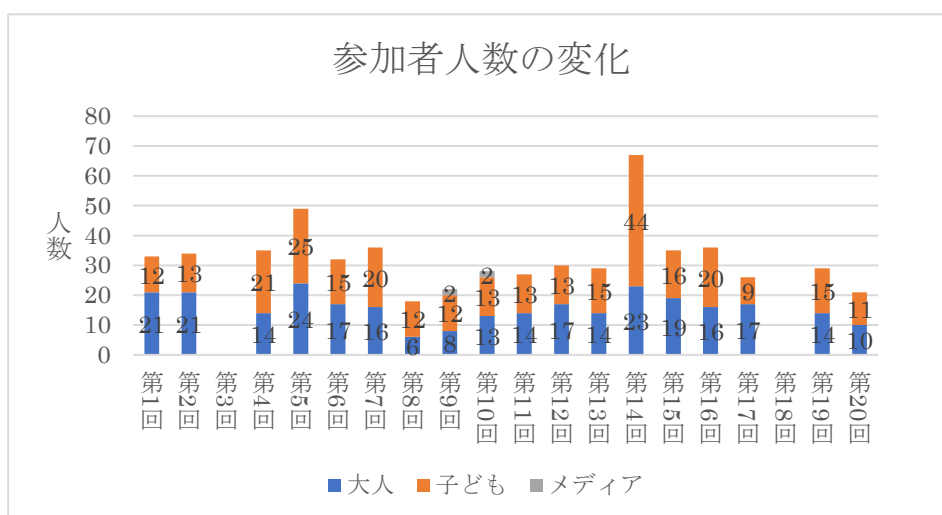
食事以外ではお餅つきが行われていた。

第19回 2017年11月12日 参加者：子ども15名 大人14名

第20回 2017年12月10日 参加者：子ども11名 大人10名 スタッフ7名

メニュー：ほうとう、小松菜とにんじんのナムル、キャベツと水菜のコールスロー、さつまいもとリンゴのくず煮、シフォンケーキ

3.参加者グラフ



参加者は平均的には30人前後である。初回からあまり人数の変化はないが、第14回に限っては約70人も参加者がいた。その理由は日本舞踊の発表会と同時開催だったため参加者の人数が多かった。ボランティアの人数は毎回10人前後となっている。

4.参加者の主な居住地、学区

北名古屋市（注1、注2）、岩倉市、稲沢市、小牧市、江南市、名古屋市（北区）からの参加が多く、特に北名古屋市からの参加者が多い。

（注1）北名古屋市は、愛知県の北西部にあり、南は名古屋市、東は豊山町、西は清須市、北は小牧市、岩倉市及び一宮市に接しています。東西約6km、南北約4km、面積は18.37km²と比較的小規模であり、ほぼ全域が名古屋市の都心部から10km圏内に位置しています。中央部を南北に名鉄犬山線が運行しており、名古屋方面、犬山方面と結ばれていることに加え、名古屋市営地下鉄（鶴舞線）と相互乗り入れしているため、名古屋都心へのアクセスが極めて容易になっています。また、西部に国道22号線が走り、近隣に国道41号線、国道302号、名神高速道路、名古屋高速11号小牧線、名古

屋第二環状自動車道があり、さらに国道 22 号上には名古屋高速 16 号一宮線が新たに建設され、県営名古屋空港へも近く、広域的にみても交通利便性の高い地域となっています。

(注 2) 合併前の師勝町と西春町で、それぞれ公募し、応募総数 3,634 件、応募種類 1,001 種類の中から、合併協議会小委員会で 6 種類に絞り込まれ、平成 16 年 11 月 2 日開催の第 7 回合併協議会で協議会委員の投票により、合併後の新市の名称が「北名古屋」に決まりました。合併協議会の中で、「北名古屋」という名前のイメージについて、「国内だけでなく、国外からみても愛知の地名よりも名古屋の方が知名度が高い。名古屋圏の経済的位置づけ、名古屋を関連づけてまちづくりを考えていかなければならない。今後はグローバルな世界を目指さなければならない。新市がどこにあるのかを世界にアピールするにもよい。」という見解が「北名古屋」という新市の名称の決め手となりました。

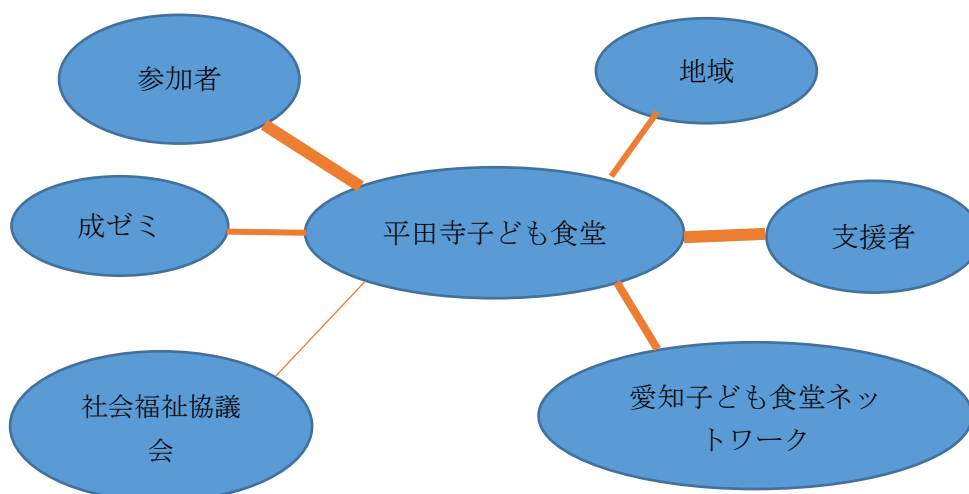
5. 平田寺子ども食堂の課題

参加者のほとんどが親子やお年寄りなので子どもだけの参加がないので子どもだけでも参加しに来てほしい。しかし、平田寺の近くは、交通量が多く、子どもだけの参加は危険なのではという意見もある。

6. 課題を解決するための取組み

以前は、手書きのポスターやチラシを作って近くの保育園や児童館に置かせてもらっていたり、小学校の近くで配布していた。しかし、現在はそのような活動は行っておらず、フェイスブックなどの SNS を使ってのお知らせしか行っていないので、子ども食堂が話題になっている今、また以前のような活動を行うことで地域にもより一層根付くのではないかと思う。

7. 平田寺子ども食堂のつながりマップ



平田寺子ども食堂はフェイスブックを中心に開催日や前回の子ども食堂の情報などを発信している。以前はテレビなどで取り上げられることもあった。主に食材の提供はお名前を出すことは出来ないがある企業の方が毎回提供してくださる。他にも地域の方の育てている食材も頂いている。調味料などはボランティアの方々が持ち寄っている。しかし、最近では食材などスーパーなどで買うこともある。

8. 考察

平田寺はお寺であり、お寺は公共の場であるとともに、主催者の長谷川さんの生活の場であり、布教の場でもある。そのような場所での子ども食堂は、誰でも参加して良いという面を持ち、さらに、毎回同じ場所で開催できるという利点がある。平田寺子ども食堂は、子ども食堂だけの開催というものが少なく、子ども食堂は12時から開催されるが午前中には恩田の集いが開かれており、そこに参加していた人がそのまま子ども食堂に参加したり、子ども食堂が終われば講演会が開かれていてそこに参加する人もいれば、マルシェで野菜や手作りのお菓子などを買っていく人もいる。足つぼマッサージを受けていく人もいる。アクロヨガがやっている時はそれに参加するひが多い。平田寺ではこのように子ども食堂以外のイベントが多いため子ども食堂がメインで来る人もいれば、子ども食堂以外をメインで来る人もいるのでその分参加者の年齢層も多様で子どもとお年寄りなどの交流が増える。それにより子どもはお年寄りからたくさんの知恵などを教えてもらい、お年寄りは子どもと遊ぶことで元気になり、人と人とのつながりが広がり、知恵や情報の共有ができる。

平田寺子ども食堂では、昨年、飲食店運営許可を取得したため参加者は安全に食事をすることが出来る。飲食店営業許可はひとつの安心のためであり、子ども食堂のためというよりもお寺での食に関する活動をよりやりやすくするために取得した。

主催者の長谷川さんは今後生きる力をはぐくむ食の在り方や日本人が昔から食とどう関わってきたのか、などこれから生きていく中で必要となる情報も少しずつ発信していければいいと言っている。

私は、平田寺子ども食堂に参加したことによって普段料理をしなかったが、少しずつではあるが、料理をするようになった。子ども食堂に参加しない限り繋がることのなかった人たちと繋がる事が出来たり、子どもたちと遊んだり新しいつながりや新たな経験が出来た。これから先、この経験を活かしていきたい。今、平田寺子ども食堂に参加しに来ている子どもたちがこれから大人になった時に子ども食堂のような活動をしてくと良いと思う。

参考引用

(注1) (注2) 健康快適都市北名古屋市役所ホームページ
<http://www.city.kitanagoya.lg.jp/keiei/1800108.php>